

# 滝川市コミュニティ・タイムライン研修会

大雨による水災害が年々増加している昨今、行政による公助には限りがある一方で、近所の人の呼びかけにより避難し命が助かったなど、いざという時に住民同士で助け合い防災行動をする「共助の取り組み」が注目され始めています。滝川市では、平成27年度から試行的に取り組んでいる『石狩川滝川地区水害タイムライン』が、令和2年度から本運用するにあたり、浸水想定区域の町内会や自主防災組織でも防災事前行動計画(コミュニティ・タイムライン)を作成していただき、今後の共助の取り組みに役立ててもらうための研修会が開催されました。



【実施日時】 令和元年10月6日(日) 13:00～16:40

【実施場所】 滝川市まちづくりセンター みんくる

【参加人数】 81名(62町内会)

## 市長挨拶

最初に滝川市前田市長から挨拶をいただきました。前田市長は、「西日本でも大変な豪雨災害が起こっている中、滝川市は今年そういった災害は起きていないが、去年の地震によるブラックアウトや今年千葉で起こった停電のように、あらゆる災害が起こっており、いつまた大きな災害に見舞われるかもしれない。防災行動の指針となる滝川地区水害タイムラインは北海道で初めて取り組まれ、来年度から本格運用が開始される。町内会の皆様によるコミュニティ・タイムラインができることによって、住民の皆様の防災行動がタイムラインの連携につながり、まちの安全や安心につながるということをご理解いただきたい。また、自らの命は自ら守るという意識を持つことが何よりも大切である。」とお話されました。



## 志田氏による講演

日本気象予報士会北海道副支部長であり、滝川地区水害タイムライン検討会のアドバイザーでもある志田昌之氏より「地域共助の大切さ」と題し、講演を行っていただきました。着実に温暖化が進んでいることにより引き起こされる深刻な気象現象や北海道で災害をもたらす大雨についてなど、気象についての貴重な情報提供をしていただいた他、災害を最小限にとどめるために普段から私たちができること、心がけること、そして地域における助け合いによって水害に強い地域を作ることの重要性等についてお話されました。



## ワークショップ

初めに滝川市防災危機対策室より滝川市の災害について情報提供があり、その後滝川市コミュニティ・タイムライン策定マニュアルを使って、町内会参加者によるコミュニティ・タイムライン作成を行いました。滝川市ハザードマップを使い、町内会の想定浸水深や避難所までの避難ルートについて確認したあと、地域で行うべき防災行動や町内会で抱える課題について、滝川市コミュニティ・タイムラインの様式に書き込んでいきました。参加者からは、「避難所までの距離が遠く車がないと移動手段がない」「町内会に未加入の住人が半分近くおり、共助の取り組みを行うことが難しい」「避難行動要支援者のリストを作成したいが本人がありがたい迷惑だ、と受け入れてくれない」など様々な課題があがりました。また、「雨の中では広報車のアナウンスが聞こえない」「コミュニティ・タイムライン作成に地域の学校や会社にも参加してほしい」など町内会からの要望について、市での改善に向けた取り組みについて、滝川市湯浅室長から説明がありました。研修会で作成したコミュニティ・タイムラインは、町内会ごとに精査し、完成させた後、各世帯に配布される予定です。



## 講評

最後に志田昌之氏に講評をいただきました。志田氏は「情報は欲しいときに待っていてもこない。取りに行くしかない。何となく危ないと心で感じたときには、情報を町内会で協力して取りに行くようにしてほしい。また、今日のように町内会で集まる場でお互いに話し合うことで、避難の際の移動手段など、どうしたら一番良いかのアイデアが出たりするのでぜひ続けていってもらいたい。」とお話され、またワークショップであがった課題の中から、避難したがる人への対応や町内会へ未加入の住人に対する対応など、今後の町内会としての対応のヒントになる方策について教えてくださいました。

